



地域と生きる

おんが病院・おかがき病院だより

新統括院長よりごあいさつ



この度4月1日より杉町圭蔵先生の後任として統括院長に就任いたしました末廣剛敏です。どうぞよろしくお願いいたします。

2025年は「2025年問題」といわれるように「団塊の世代」の800万人が全員75歳以上の後期高齢者になり医療・介護システムや人材不足が深刻化する始まりですが、高齢者の数はその後も増え続け、団塊ジュニア世代が高齢者となる2040年には高齢者の数がほぼピークを迎えます。2040年を見据えて、厚生労働省は地域医療の将来像を示す新たな「地域医療構想」の方針を策定しました。その中には今後需要が高まる在宅医療と高齢者の救急搬送への対応を強化するなど、入院に限らない医療体制を整備することが盛り込まれています。また、今後は医療と介護の両

方が必要になる人も増えこれまでの「治す医療」だけではなく、「暮らしを支える医療」が重要になることから医療機関と介護施設の連携も強めていく必要があるとしています。

昨年度おんが病院は地域医療支援病院として1400台の救急車を受け入れました。そして在宅療養支援病院としておんが病院、おかがき病院合わせて約450人の方に訪問診療をおこなっております。また、おんが病院に在宅総合支援センター、おかがき病院に地域総合支援センターを設立し、医師会病院として地域医療だけでなく医療介護連携を推進する取り組みを積極的に進めています。

今年は「乙巳(きのとみ)」です。これは、成長の兆しを表す「木の陰(乙)」と、発展や転換を象徴する「火の陽(巳)」が組み合わさる年になります。

そのことから、2025年は、変化と新たな挑戦のエネルギーが高まる年とされています。

おんが病院では4月に新たに血管外科部長として三井信介先生をお迎えし血管外科を開設しました。三井先生はわが国を代表する血管外科の第一人者で、5月に北九州で第53回日本血管外科学会を主催されました。そのほかにも消化器内科に田中貴英先生と南川容子先生、整形外科に大山龍之介先生をお迎えし新たな体制で診療を開始しました。

60年に一度しか訪れないこの貴重な年に、おんが病院にとっても大きな転機となる可能性があります。今後もおんが病院おかがき病院ともに地域のみなさまのために救急医療、在宅医療ともに力を入れて参りますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。

遠賀中間医師会 おんが病院おかがき病院
統括院長 末廣 剛敏



おんが病院 新任医師紹介



血管外科部長
み い しんすけ
三井 信介

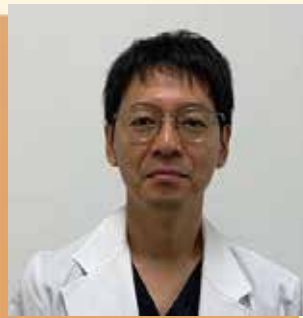
おんが病院に新たに開設された血管外科に4月より着任いたしました。

私は平成6年に新日鉄八幡製鉄所病院に勤務して以来、小倉記念病院、製鉄記念八幡病院、済生会八幡総合病院と北九州市内の病院で、血管外科医師として31年間働いてまいりました。その間、おんが中間医師会所属の病院・クリニックからも、多くの患者さんをご紹介いただきました。この度、済生会八幡総合病院定年退職後、縁あって、おんが病院に血管外科を立ち上げることになりました。何卒よろしくお願い申し上げます。

当地区も北九州市同様、高齢化が顕著で、血管疾患を有す患者さんも多いと思います。動脈瘤や足壊疽などの生命・肢切断に関わる動脈疾患は、早期発見早期治療が原則です。診断・治療戦略など、なんでもご相談いただければ幸いです。

ただし、マンパワー・設備が不十分なため、外科的治療は未だできません。必要時は、近隣病院に紹介いたします。一方、静脈疾患(下肢静脈瘤・深部静脈血栓症)に対しては診断から治療まで、下肢静脈瘤についてはレーザー・グルー治療、硬化療法を行います。ご紹介の程、よろしくお願い申し上げます。

地域の皆様の健康維持の一助となれば幸いです。



おおやま りゅうのすけ
大山 龍之介

2025年4月より整形外科に勤務となりました大山 龍之介(おおやま りゅうのすけ)と申します。平成26年に岐阜大学を卒業後、北九州総合病院で初期研修を行い、九州大学整形外科に入局しました。JCHO九州病院、九州大学病院、九州医療センター、九大別府病院、九州中央病院での勤務を経て、大学院の方で骨軟部腫瘍の研究をしておりました。骨粗鬆症、変形性関節症、脆弱性骨折などは、ご高齢の方に非常に多い運動器疾患です。これまでの経験を活かし、地域の皆様に最適な治療を提供させて頂くことで、元気にいつまでも歩き続けられるようお手伝いをさせていただきたいと思っております。地域で求められる役割をよく理解し、少しでもお役に立てるよう頑張ります。何卒宜しくお願い申し上げます。



たなか たかひで
田中 貴英

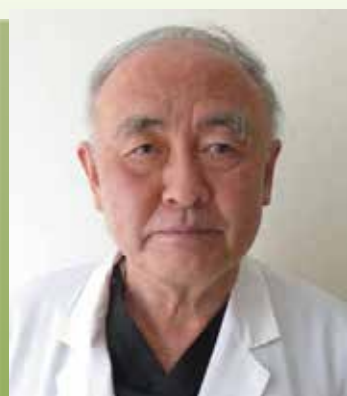
2025年4月より消化器内科に勤務となりました田中 貴英(たなか たかひで)と申します。九州大学を卒業後、研修医を経て、福岡赤十字病院、九州大学病院、松山赤十字病院、浜の町病院、製鉄記念八幡病院で勤務し、消化管内視鏡を用いた消化管腫瘍の治療、および炎症性腸疾患の治療に携わってきました。当院でも引き続き、内視鏡を活かして、消化管腫瘍の早期発見・治療に努めます。丁寧、迅速かつ患者様の負担が少ない検査・治療を心がけています。おんが病院消化器内科の一員として地域の皆様のお役に立てるよう頑張っております。消化器疾患についてのお困りの点、ご相談がございましたら、お気軽にお問い合わせください。よろしくお願いいたします。



みなみかわ ようこ
南川 容子

2025年4月より消化器内科に勤務となりました、南川 容子(みなみかわ ようこ)と申します。2019年に大分大学を卒業し、JCHO九州病院、松山赤十字病院、九州大学病院での勤務を経て当院へ赴任いたしました。内視鏡検査では、安全かつ患者さんに負担の少ない丁寧な検査を心がけております。また、大腸ポリープ切除やESD(内視鏡的粘膜下層剥離術)などの内視鏡治療も積極的に行なっていきたいと考えております。内視鏡検査だけではなく、潰瘍性大腸炎やクローン病などの炎症性腸疾患、その他の消化器疾患の診療もぜひご相談いただければと思います。地域の皆様のお役に立てますよう、精一杯業務に邁進してまいります。今後とも何卒よろしくお願いいたします。

おかがき病院 新任医師紹介



う じ みつはる
宇治 光治

私は 1980 年に医師となり、最初の10年間は産婦人科医として働きました。悪性腫瘍に最も力を入れて学んでおりました。その後は福岡県の行政の世界で公衆衛生医として20年以上を過ごしました。その時期から仕事の守備範囲として精神保健福祉分野の業務に携わってきました。50 歳代になってから、家庭の事情もあり山口県内に単身赴任をして精神科臨床医としての修行をしました。精神科医療に従事してから13年になります。根っからの精神科医ではありませんが、他の分野の仕事も経験してきたということを自分の特徴にできればと思っています。このような自分がお役に立てれば幸いです。どうぞ宜しくお願いします。

公 式 Instagram 開 始 の お 知 ら せ

一度ご覧ください。



当院は、院内の取り組みや活動をより多くの人に知ってもらう為に 2025.4.1 に公式の Instagram を開設しました。

4月・5月 は、新採用者を中心に新院長桑野先生のあいさつや秘蔵写真をアップしています。

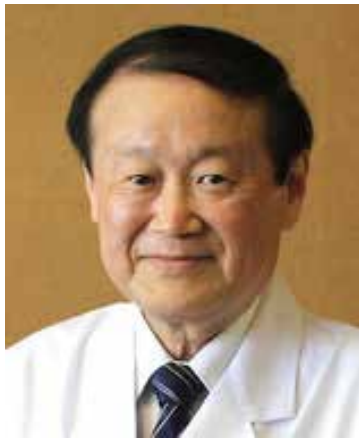
今後は、院内で行っているレクレーションや音楽療法の様子、突撃うちのご飯ならぬ突撃職員のお弁当状況、院内外の研修風景、時にはおすすめ café 等も紹介していきますので、是非フォローをお願いします。フォロー数が増えると作成メンバーのやる気も上がるので宜しくお願いします。



おかがき病院に新たなスタッフが増えました 😊 etc

4月2日にアップした写真です。

おかがき病院院長就任のご挨拶



一般社団法人遠賀中間医師会
遠賀中間医師会おかがき病院
院長 桑野 博行

このたび、令和7年4月1日、令和5年より2年間の当院の地域総合支援センター長を経て、病院長を拝命いたしました、桑野博行でございます。私は、昭和53年に九州大学医学部を卒業し、九州大学第二外科でおもに消化器外科、特に食道外科を専門とし、診療・研究・教育に携わり、平成10年から約20年間の群馬大学医学部・外科学教授、平成30年から5年間の福岡市立病院機構 福岡市民病院・院長を務めた後、当院に赴任した者です。

当院に赴任してからの2年間は、「地域総合支援センター」のセンター長として勤務させていただきました。それまで長年にわたり外科診療、急性期医療に携わってきた者として、「回復期リハビリテーション」、「地域包括ケアシステム」などは、概念で理解はしていたものの高齢化社会における実態に直接関わる機会となり、改めてその重要性和意義を実感し、とても新鮮な経験をさせていただいた2年間でした。また、そこにある様々な問題点と課題も認識させていただいております。そしてこの度、杉町圭蔵先生が「遠賀中間医師会 おんが病院・おかがき病院 統括院長」から「顧問」となられ、末廣剛敏院長がその後任となられるのに伴い、不肖わたくしが、おかがき病院院長を拝命することとなりました。

病院長としては、前述したように「福岡市立病院機構 福岡市民病院」で5年間務めさせていただいた経験がございます。その間のかなりの時間は、「COVID19」の対応に公的病院としての職務を果たす責任がより求められました。多くの職員とともに勉強会などを通じて最新のデータを把握しつつ、行政機関、そして近隣の医療機関との情報共有とネットワークを密に構築しつつ、誠実に職務を全うしてまいりました。その際に、以下のような理念をメッセージとして発信致しました。

「新型コロナウイルス感染症に関して、**わたしたちは、**

1. 患者さん、そのご家族や関係者を**まもります**。
2. すべての職員、そのご家族や関係者を**まもります**。
3. 病院の組織と業務環境、そして医療を**まもります**。

これらを実践するために、皆様おひとりおひとりの院内ルールのご協力をお願い申し上げます。」

患者さん、地域医療をおまもりすることは当然のことですが、そこに心と体を尽くして働いてくれている職員とそのご家族を守りたい一心でした。そして、その頃は、「医療崩壊」という言葉をよく耳にしました。

現在、医療を取り巻く環境も「COVID19」流行時とはまた違った意味において厳しくなっており、病院組織そして業務環境もしっかりと支えてゆくことが今、まさに問われております。今後も引き続きこれらの理念を堅持し、そして介護も合わせた「地域包括ケアシステム」にも貢献しつつ、病院運営に当たってまいりたいとの気持ちを新たに致しております。

今後、このことも含め、杉町先生、末廣院長がご尽力されてきた、基本方針を踏襲しつつ「おんが病院」矢田親一郎院長とも協力して、地域に密着した「顔と心が見える医療」を実践・展開してまいりたい、と心を新たに致しております。「地域包括ケア病棟」、「回復期リハビリテーション病棟」、そして、地域包括ケアを構成する「介護」支援の場としての、ショートステイ、認知症デイケア、通所リハビリテーションからなる「地域総合支援センター」が、一丸となって力を尽くし、さらに在宅医療、訪問診療も積極的に推進してまいります。そして「地域包括ケアシステム」のもとに、医療と介護の連携を推進し、地域に密着した医療に貢献してまいる所存ですので、今後とも「おかがき病院」に対しあたたかいご指導とご厚情を賜りますようお願い申し上げます。

発行日：令和7年6月吉日

発行：遠賀中間医師会おんが病院・おかがき病院

編集：おんが病院・おかがき病院広報委員会